

東京湾海況情報 13 - 12

貧酸素水塊動向調査(9月17日分)

平成13年9月21日
千葉県水産研究センター 富津研究所
〒293-0042 富津市小久保3091
0439-65-3071 FAX 0439-65-3072

資料：水質観測(9/17 東京内湾：わかふさ)

千葉県環境研究センター，ふさなみ観測資料，一都三県漁海況速報，東京湾口海況図

貧酸素水塊動向調査結果(9月17日分)

台風11号による大雨のため，内湾の広い範囲に低塩分水が分布し，栄養塩類量が増加しています。

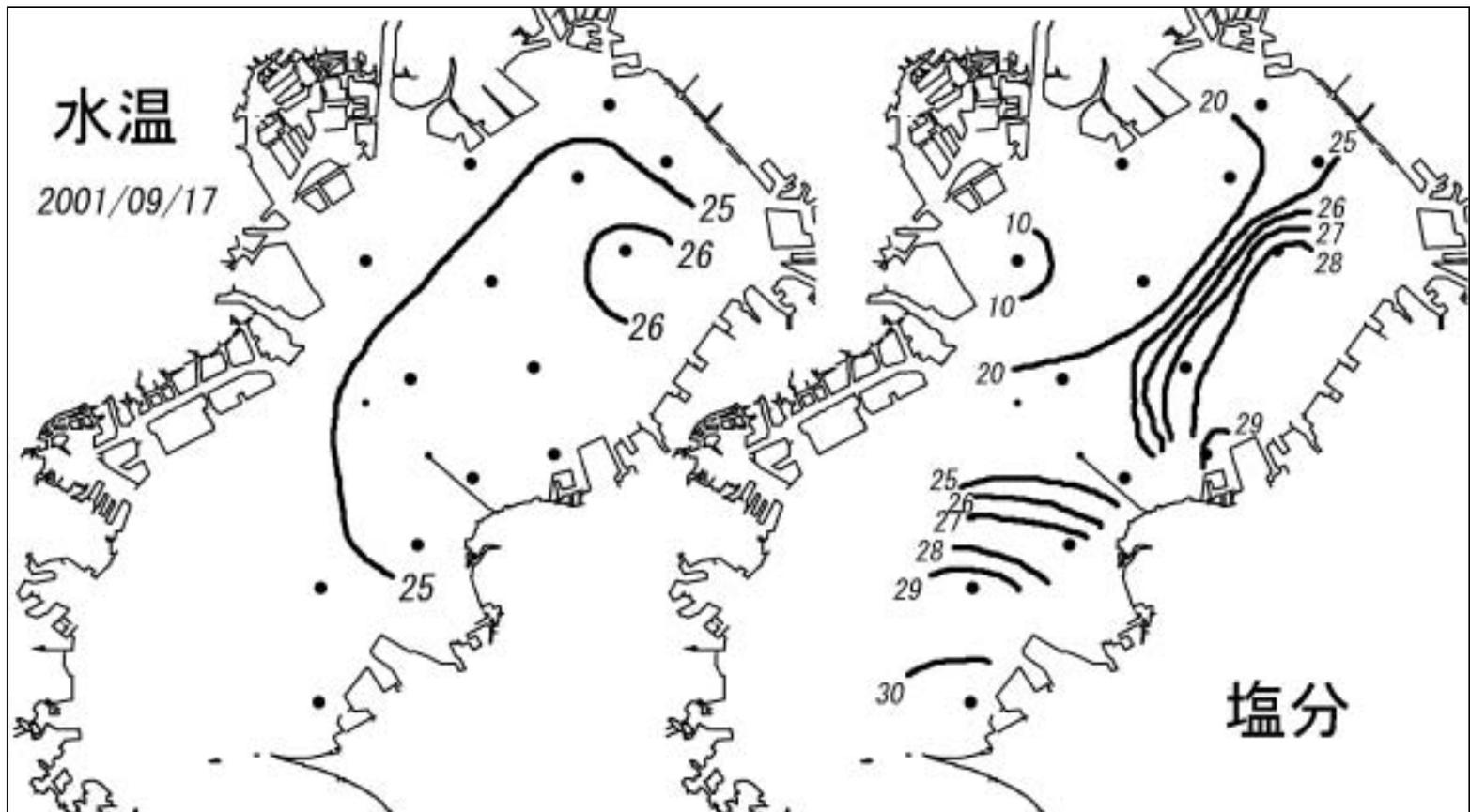
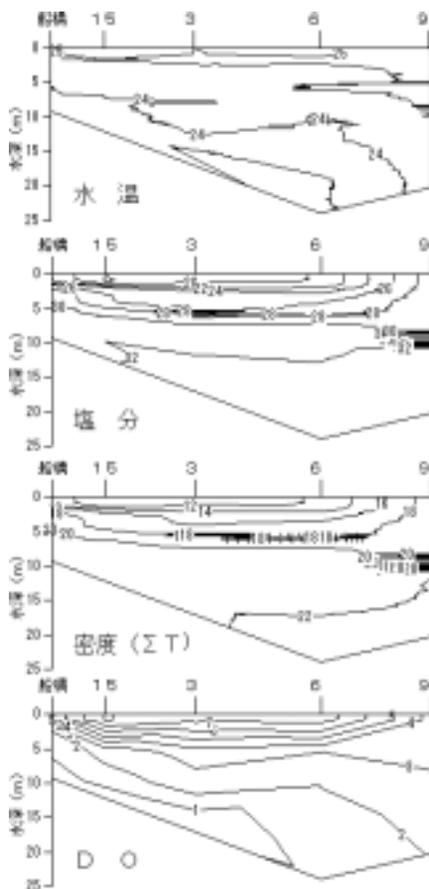


図1 表層の水温・塩分分布



水温・塩分の状況(図1~2, 表1)

表層の水温は24~26℃，塩分は9~30‰でした。内湾北西部を中心に低塩分水が分布しています。内湾縦断面の鉛直分布では水温23~26℃，塩分19~32‰でした。表層付近の低塩分水のため上下の密度差も大きくなっています。

赤潮の状況(図3, 表1)

内湾で赤潮が発生していました。図示した海域周辺でも赤潮に近い状態になっています。主なプランクトンは珪藻のタラシオシラ(*Thalassira* sp.) ニッチア(*Nitzschia* sp.) でした。

また内房海域でも目視で赤潮が確認されています。(千葉県の赤潮の目安...色: オリーブ~褐色, 溶存酸素の飽和度: 150%以上, 透明度: 1.5m以下, pH: 8.5以上, クロロフィルa量: 50µg/L以上)

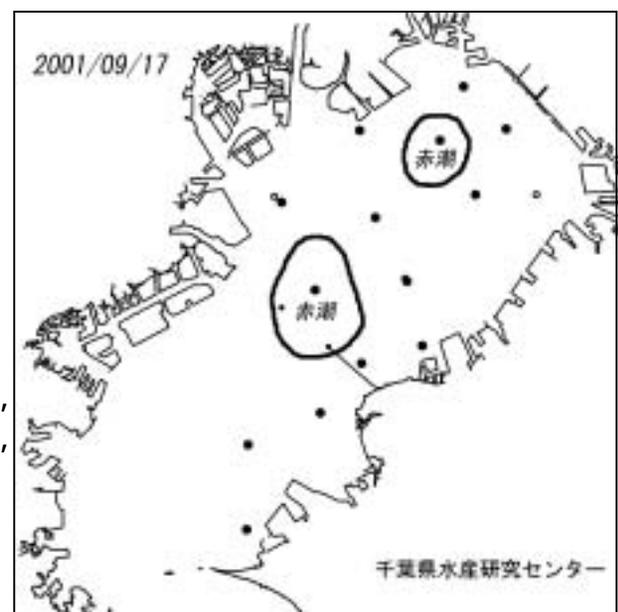


図3 赤潮の分布

図2 内湾縦断面の鉛直分布

貧酸素水塊の状況 (図2, 4, 表1)

11日の台風によりやや解消していた底層の貧酸素水塊はふたたび範囲を広げています。

水産研究センターでは2.5 ml/L (酸素飽和度約50%)以下を貧酸素水としています。漁業種類によってはそれ以上でも影響がでる場合もありますので注意してください。

栄養塩類の状況 (表1)

河川水の流入により、表層の溶存無機態窒素(DIN)が大きく増加しました。310~1000以上 μg/L, リン酸態リン(PO4-P)は内湾で7~53 μg/Lでした。

潮位の上昇 (図5)

第3管区海上保安本部の資料によると、9月11日午前11時に内湾(芝浦)で309cmまで潮位が上昇しました。原因は台風による南風と気圧の低下、沖合水の浸入が重なったためだと考えられます。

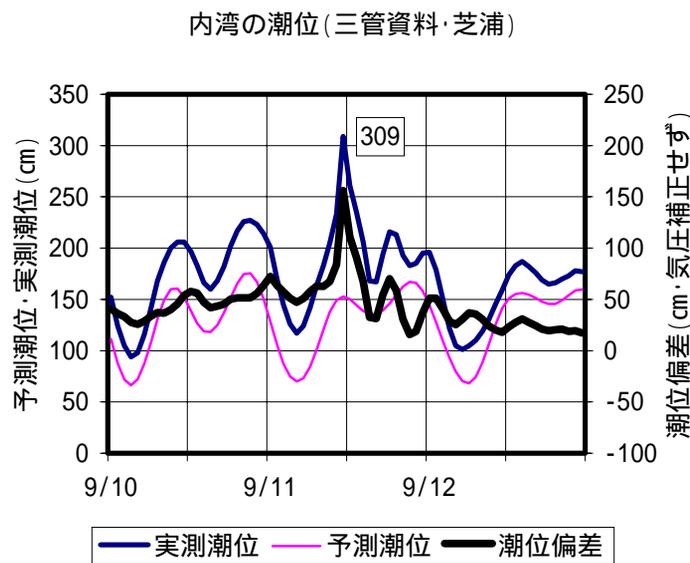


図5 内湾の潮位・潮位偏差

表1. 水質調査結果(表層)

調査年月日:平成13年9月17日

調査点	透明度	水温	塩分	pH	クロロフィルa量 (μg/L)	DO(底層: ml/L)	溶存無機態窒素 (μg/L)	リン酸態リン (μg/L)
船橋	1	25.0	21.36	8.1	分析機器故障のため欠測(年度版には掲載)	0.4	1002	27
St. 15	1	25.3	17.98	8.5		1.4	1000以上	10
st. 3	1.4	25.0	19.01	8.4		0.4	1068	7
St. 6	1.2	25.1	20.12	8.5		1.2	687	7
St. 9	3.2	24.7	29.09	8.0		2.0	418	37
盤洲Cブイ	2.9	25.3	29.51	8.0		1.5	394	32
盤洲Bブイ	1.8	25.6	24.14	8.6		1.7	508	14
St. 8 (盤洲Aブイ)	2.8	25.2	27.38	7.8		2.2	542	53
富津ベタ	2.8	24.7	30.45	8.0		2.3	310	25

透明度, pH, クロロフィルa量の網掛けは赤潮, DOの網掛けは貧酸素水の基準に達していることを示しています。

東京湾情報ボックス

ラブカ捕獲

9月13日富津市磯根埼沖で大佐和漁協所属の組合員が弱って浮いているラブカ(全長約170cm, 体重約10kg)を捕獲しました。

ラブカはサメの一種で、3億5千万年前の古代型のサメ「クラドセラケ」に似ていることから「生きた化石」ともいわれています。近くでは駿河湾や相模湾で獲れるほか、東京湾でも内房の水深200m付近に生息しているようです(中央博物館による)。

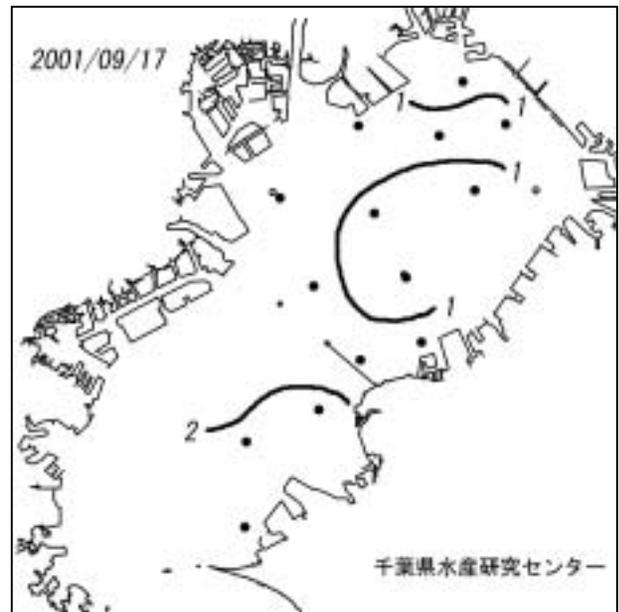
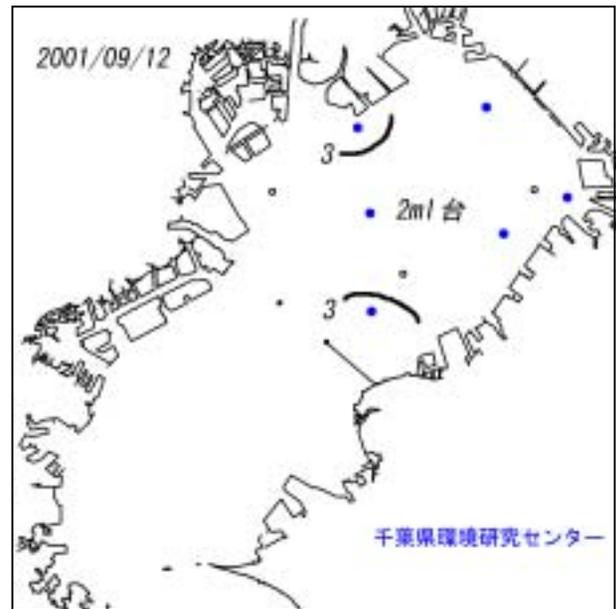


図4 底層の溶存酸素量分布(ml/L)

